

熊本地震災害派遣薬剤師・九州ブロック現地活動報告 No.13

平成 28 年 5 月 5 日

【派遣日程】 4 月 28 日（木）～4 月 29 日（金）

【報告者】 佐賀県 千代延 誠治

【メンバー】 陣内 貴義, 楠田 紗和子, 千代延 誠治

【派遣先】 益城町保健福祉センター

【交通状況】 基本的にどこも渋滞している。

高速が昨日29日より開通したため、帰路は時間が早くなった。

熊本入りは出口で渋滞。

※近隣の状況

熊本市内から保健福祉センターに近づくにつれ、倒壊建物が増え、そこから避難所になっている益城中央小学校へ行く途中の建物の倒壊がひどい状況。道路もひび割れて、波打っている。

【ライフライン】 小学校は水が来ていない。

※避難所情報

パーティションがない為、プライバシーは全くない。

食料や水は大量にあり、充実していた。

トイレは臭いは気になるが、消毒等はしっかりとされていた。

【活動内容】 ※派遣地域の人員体制

29日は東京3名、大阪3名、佐賀3名、長崎4名、岐阜3名、熊本3名の19名。

※被災者状況

基本的には近隣のかかりつけ医に受診するように体制を整えている為、急性疾患の対応が多い。29日にJ-MATに同行した時も急性疾患が主だった。

※その他

慢性疾患の方の薬はかかりつけ医にかかり、しっかりと持っている方が多かったが、服薬状況は良好とは言い切れない状況だった。

薬剤師がしっかりと関与して、確実に飲んで貰う様に支援が必要と感じた。そこから地元の薬局と情報をシェアできるようになれば、将来的な援助になっていくのかと思う。

※引き継ぎ情報

日々状況が変わっていくので、朝のミーティングでしっかりと状況をシェアすることが大事だと思う。

- 
- 【派遣日程】 4月28日（木）～4月29日（金）
- 【報告者】 福岡県 波多江 俊子
- 【メンバー】 伊藤 太綱, 渡辺 哲, 兵連 信次, 鬼塚 龍, 波多江 俊子
- 【派遣先】 益城総合体育館
- 【交通状況】 福岡インター(8:15)から益城インター(9:50)で降りて、熊本県薬(10:30)。益城総合体育館(12:20)。県薬から益城総合体育館は、迂回。
- 【ライフライン】 電気は自己発電（時々停電）。水道なし。
- 【活動内容】 ○28日  
日赤医療班・国立病院機構の医療チームの調剤支援。
- 29日  
お薬相談コーナー
- ・OTC薬の配布
  - ・受診勧奨
  - ・お薬でお困りの被災者を巡回訪問し、傾聴する
- 状況
- ・市内への巡回バスは動き出したが、3便くらいしかないためバスの時間に制限があり一日がかりになり負担が大きいと訴えあり。  
(タクシーを活用すると10,000円かかる。)
  - ・調剤業務は22時で終わり、休息は取れたがテントや車内は寒かった。

- 
- 【派遣日程】 4月30日（土）～5月1日（日）
- 【報告者】 福岡県 川副 隆裕
- 【メンバー】 高橋 真貴, 吉武 美由紀, 川副 隆裕
- 【派遣先】 益城町保健福祉センター
- 【交通状況】 行き：佐賀県薬13：55出発→熊本県薬16：40着（一般道利用）  
所要時間 2時間45分  
帰り：熊本県薬20：00出発→佐賀県薬21：35着（高速利用）  
所要時間 1時間35分
- 【活動内容】 ○30日 16：40 熊本県薬剤師会会館着  
おくすりゼリーを益城町保健福祉センターへ届けた。  
19時からのミーティングに参加して、状況把握。

前班より、活動内容を引き継ぐ。

○1日 8:00 益城町健康保険福祉センター着

8:30 ミーティング

佐賀県薬はモバイル薬局にて調剤。

センター内で投薬とおくすり相談を担当。

大阪府薬はセンター巡回。

長崎県薬は保健師と同行して他の避難所を巡回。

岐阜県薬は栄養士と同行して他の避難所を巡回。

処方内容としては、カロナール200mg、トローチ、PL顆粒、セフゾン等が多く出ていた。

午後から D-MATからの処方も受け付け、循環器、高脂血症の患者5人分の調剤も行った。

---

【派遣日程】 4月30日（土）～5月1日（日）

【報告者】 福岡県 赤沢 史明

【メンバー】 寺本 美香, 井上 正太, 赤沢 詠子, 赤沢 史明

【派遣先】 ホテル エミナース

【交通状況】 小倉駅8:51発の新幹線→熊本駅9:50頃着 途中徐行箇所あり

熊本駅よりタクシーで20分ほどで熊本県薬剤師会

熊本県薬剤師会よりレンタカーにて12:00頃出発

→13:00頃ホテルエミナース到着

【ライフライン】 電気：○ ガス：不明 水道：○

ホテル内トイレ2ヶ所, ホテル施設内トイレ1ヶ所, 仮設トイレ6台使用可能

【活動内容】 避難所：阿蘇熊本空港ホテルエミナース

避難者数：約250名+車中泊者数不明

熊本県薬・徳島県薬・宮崎県薬・福岡県薬の4チームが滞在

熊本県薬チーム：エミナース救護所

徳島県薬チーム：大津町避難所巡回

宮崎県薬チーム：山西小学校・西原中学校の避難所の巡回

福岡県薬チーム：2名ずつ2班、エミナース救護所班・河原小学校避難所班

に分かれて行動エミナース救護所での活動

●救護所内にて

お薬相談・OTC配布：24時間体制

日本赤十字病院チームの災害対応処方箋にて調剤・交付  
(10:00~16:00)

トイレ清掃ボランティアへの次亜塩素酸Naの交付

救護所内のOTC・医療用医薬品の管理

●トイレの手洗い洗剤・手指消毒剤の補充交換、衛生確認

OTC：食生活の変化での便秘の訴えや生活環境の変化での体の痛みの訴えあり。

調剤：上気道炎やインフルエンザ疑い、降圧薬の処方あり。一包化薬の判別あり。住所、電話番号の確認も必要。

常用薬は在庫品目が少ないためセントラルファーマシー長嶺店へ院外処方を紹介する事あり。

次亜塩素酸Naの交付：1回分ずつ包装された粉末をバケツに入れる。

在庫なくなり次第錠剤のタイプに切り替え予定。

OTC管理：支援物資による過剰なOTCの在庫になっていた為、熊本県薬へ過剰分を輸送し仕分け、リストを更新。

医療用薬管理：閉鎖された他避難所からの在庫引き受けで類似品の在庫が増えていたが、医薬品を配置するスペースは少ない。品目不足や在庫が減ったものは医薬品卸各社に直接電話にて発注。

医療用医薬品リストを更新し診察前に日赤チーム医師、薬剤師、河原小学校巡回Dr、西原中学校巡回Dr用に準備。

トイレの洗剤等：仮設トイレにおいて手指消毒剤や手洗い洗剤の配置場所に難あり、直射日光が当たり高温になりやすかったり、手洗い水の配置用のテーブルがなかったりする。

気温の上昇や雨などでの衛生状態の悪化に注意が必要。

---

【派遣日程】 5月1日（日）～5月2日（月）

【報告者】 佐賀県 高祖 厚志

【メンバー】 古賀 敦士，高取 幸司，高祖 厚志

【派遣先】 益城保健福祉センター

【ライフライン】 電気○、ガス？、水道×

【活動内容】 益城保健福祉センターにて活動を行う

1日18:30からの薬剤師ミーティングに参加

2日8:30から薬剤師総合窓口で、処方箋の応需、調剤、投薬、指導を行う。

センター内巡回でお薬相談応需、感染防止のため手指消毒剤の手技、配布を行う。

定期業務については流れができており、他県との引継ぎ等も重なっているため総合窓口、調剤、投薬までの手順を作成した。

また、センター内巡回の手順も作成し、固定業務の効率化を図った。

---

【派遣日程】 5月1日（日）～5月2日（月）

【報告者】 福岡県 万田 富彦

【メンバー】 光山 秀一郎，角 咲貴子，万田 富彦

【派遣先】 益城町総合体育館

【交通状況】 ○往路 8:00 久留米出発

9:20 益城熊本インター

10:20 益城町総合体育館着

○復路 11:40 益城町総合体育館出発

12:20 益城熊本インター

13:40 久留米着

【ライフライン】 電気○ 水道○ 飲用不可 ガス？

【活動内容】 (1) お薬相談コーナー（OTC）（8:00～21:45）

1日は30名程の健康相談を行いOTC配布と指導。

時間をみながら、交代で体育館内を巡回して被災者への声かけ。

日中はかなり気温が高くなったので、他団体にも薬剤師会の活動を説明し、OTCやOS-1の必要な方の聞き取り調査を行い、今後朝夕の2回、各団体本部への聞き取り調査を実施することを決定した。

2日は10名程の健康相談を行いOTCの配布と指導。

9:30に各団体本部へ行き、聞き取り調査。

その他OTCの仕分けリストの更新と発注。

(2) 衛生環境測定（7:00，15:00，21:00）

被災者の衛生環境をチェックする為、3カ所で二酸化炭素濃度、温度、湿度、粉塵濃度を測り、2カ所での騒音チェックを計測した。

1日は震災後、最高気温となった為、熱中症の注意喚起を行った。

---

- 【派遣日程】 5月1日（日）～5月2日（月）
- 【報告者】 福岡県 後藤 渉
- 【メンバー】 吉竹 伸司, 白石 史遠, 秋吉 尚雄, 後藤 渉
- 【派遣先】 エミナース、河原小学校
- 【交通状況】 北九州から熊本駅まで新幹線にて移動（約1時間）  
熊本駅から熊本県薬剤師会までタクシーにて移動（やや渋滞しており15分～20分程度）  
12:00 すぎに熊本県薬剤師会館に到着。薬剤師会館にて災害状況、薬剤師配置状況等について説明を受ける  
12:50 熊本県薬剤師会からエミナースまでレンタカーにて移動（やや渋滞35分程度）
- 【ライフライン】 電気、水道は問題なし。1日からエミナースの温泉が使用可能となる。
- 【活動内容】 ○1日 2名ずつの2班に分かれ引継ぎを受ける。（吉竹・後藤）  
13:30 エミナースにて引継ぎ  
14:30 セントラルファーマシー長嶺にて前日投薬できなかった3人分のお薬を受け取る。  
15:30 河原小学校に到着。上記3人分と前日不足分1名の計4人分のお薬を渡した。  
その他 OTC 医薬品の配置保管状況の確認、患者の残薬（持参薬）の確認を行った。  
看護師が24時間救護所に待機しており、避難者の状況を確認。  
昼は仕事や家の片付けに出ており、20名程度が体育館内で休養していた。  
17:30 エミナースに戻る  
19:00 薬剤師ミーティング  
その後医薬品の整理、健康相談などを行った。  
22:00～翌朝6:00 宮崎チームと合わせ3グループに分け、交代で仮眠
- 2日  
8:30 エミナースを出発  
9:00 西原村役場で全体ミーティングに参加  
9:30 河原小学校の救護室にて看護師、保健師とのミーティングに参加  
10:00～11:30 河原小学校の保健室で日赤チームの診察  
災害処方箋による調剤、投薬、服薬指導を行う（3名）  
12:00 エミナースに戻り、岩手チームと交代の引き継ぎを行った。  
13:00 熊本県薬剤師会へ戻り、業務報告を行った。

- 
- 【派遣日程】 5月2日（月）～5月3日（火）
- 【報告者】 福岡県 安田 和義
- 【メンバー】 倉石 恵利子，津々見 明，川本 太郎，安田 和義
- 【派遣先】 益城町総合体育館
- 【交通状況】 小倉駅 8:30 集合、時刻通り 8:38 発、直通運転、熊本駅 9:38 着、  
タクシーにて熊本県薬剤師会、10:30 ミーティング終了、  
11:00 熊本県薬剤師会出発、益気陸上自衛隊まで渋滞、GW のため車が多い。  
12:10 益城町総合体育館到着。
- 【ライフライン】 電気○・ガス×・水道× 飲料水、食品は少し用意されていた。  
トイレは携帯タンクで手洗い場が出来ていた。  
避難所内は整理されてスペースや環境衛生が改善されていた。
- 【活動内容】 日中は気温が高くなって救護所内が暑く半袖で十分だが、夜や雨の日は上着が必要。  
救護所にて調剤業務、避難所で記入したお薬手帳の用法記入ミスを発見、  
破傷風トキソイドが欠品のため医薬品卸に急配依頼、外傷処置の補助、  
薬剤識別依頼など。（2日 69件対応）
- 20:30 全体ミーティング
- 22:00 医療関係者ミーティング
- 3日から薬剤師ミーティング 22時から 20:30 に変更
- 6日から 10:30～20:00 に営業時間変更
- 3日から熱中症、ノロウイルス対策について館内放送開始  
（3日 29件対応）

- 
- 【派遣日程】 5月2日（月）～5月3日（火）
- 【報告者】 福岡県 渡邊 陽子
- 【メンバー】 江藤 良典，月俣 怜生基，渡邊 陽子
- 【派遣先】 益城総合体育館
- 【交通状況】 ルートとおおまかな時間（レンタカー）  
朝 8時 15分 西鉄久留米駅付近出発 久留米 IC より九州自動車道  
9時 30分 益城熊本空港 IC  
9時 50分 益城総合体育館到着  
途中高速にて 3キロ渋滞の表示があるも、益城熊本空港 IC 出口付近で少し

渋滞しただけで大きな混雑なく、また IC 降りてからも交通量は多いものの渋滞はなし。GW とはいえ、平日だからだろうか。

【ライフライン】 電気○ ガス？ 水道×

【活動内容】 所属薬剤師会ごとに概ね 3 人 1 チームで各役割担当に振り分けられている。我々 3 人は OTC 担当。(その他 赤十字 DMAT での調剤チーム、避難所各所の消毒や衛生管理チーム等)

OTC 薬品を扱うカウンターが体育館入口近くに設置されており、そこで健康相談受付、OTC 薬の配布が主な活動

体調不良を訴え訪れる避難者に対し、OTC 薬を必要に応じ 2~3 日分を目安に小分けしてお渡しする。

カウンター設置時間朝 8 時~夜 9 時 45 分

腰痛、頭痛、風邪症状、下痢など。また虫刺されなど軽度の人も含め、人数は 1 日 20 人程度。

空いた時間に避難所を巡回、声掛けを行う。

我々 3 人中 1 名は山口県薬剤師会からの 1 名と一緒に環境調査を行う。

避難所 3 か所の CO<sub>2</sub> 濃度測定、照度測定、騒音、粉塵調査

1 日 2 回の薬剤師からの避難民の方への案内放送を行う。

エコノミー症候群、ノロウイルス、熱中症の注意、対策について

○感想

症状によっては救護所への案内をするよう言われていたが、救護所の存在がすでに周知されているようで、あまり重症の人は OTC カウンターには来られないようだ。

OTC 薬の在庫がかなり偏っている印象だが、基本的には需要に対して十分な在庫があるように思う。大量に在庫がある特定の薬品もあった。

周りの医療機関も診察を再開され、調剤薬局も再開されているところもあり、また、ドラッグストアも営業を再開しているところもあるようだ。

被災後時間が経過しており、ここ益城総合体育館においては、われわれ薬剤師の活動内容も避難者の方たちに浸透しているように思われる。

また、GW に入ったこともあり、かなり大勢のボランティアが現地入りしている。一方で避難している方たちには疲労も見られ、日中も横になり休んでいる方も多くみられた。

薬剤師以外にも多職種の方が巡回している。そのため、われわれ巡回時も、積極的にこえをかけるよりも見守りやいざというときに声をかけやすい関係作りが必要だと感じた。

---



【派遣日程】 5月3日（火）～5月4日（水）

【報告者】 福岡県 横山 智

【メンバー】 田中 登志雄, 有村 京子, 横山 智

【派遣先】 益城町総合体育館

【交通状況】 ○往路

久留米インターより南下して熊本インターまでは渋滞もなくスムーズにいったが、熊本インターから益城熊本空港インターまでは途中一車線になるのとパーキングからの合流が重なり1時間50分かかった。

益城インターを降りてからは比較的スムーズで久留米を出発して体育館までの全行程で約3時間。

○復路

帰りは総合体育館から出てしばらくは交通整理がされており多少渋滞していたが、益城インターから北上して久留米インターまで全く渋滞もなく、全行程で1時間強だった。

【ライフライン】 ガス、水道は不通だったが電気は来ており適度な明るさで不都合のない状況だった。途中1時間程原因不明の停電があり非常灯での生活になったが日中という事もありさほど影響はなかった。

水道が来てないため、トイレや歯磨きなどは多少の不都合はあった。

居住スペースに関しては、体育館本体は使用不可なため、通路や他の広いスペースで居住空間を確保されていた。世帯毎には十分なスペースはあるものの、通路まで使用しているため通り抜けるためには対向者の方とぶつからないような配慮が必要だった。被災者だけではなく多くのボランティア団体も居合わせているため、お互いに通行の妨げにならないよう心がけた。極力建物の反対側へ移動する場合は通路を抜けるのではなく外から廻る配慮も必要と感じた。

【活動内容】 我々の班は基本OTCブースでの活動になったが、昨日は雨のため寒かったため風邪をひかれて咳が出る人が多く、中には熱発された方もいたので、その場合は日赤の救護所を受診するように勧めた。軽い症状に関しては手元のOTCで症状に合わせた薬を選んで提供した。また、持病の薬に関する質問などもありそれぞれ対応した。

時間が許す限り避難所の中を巡回して健康相談や薬に関する質問、必要な医薬品などは無いかを確認した。

外にあるテントも周ったが避難者に迷惑にならないよう、テントを管理している団体の本部に赴き、何か健康や医薬品その他が必要であれば声をかけていただくようにした。

その他館内のCO<sub>2</sub>濃度の測定や照度の確認、館内アナウンスによるエコノミークラス症候群の予防などの呼びかけも行った。

- 
- 【派遣日程】 5月3日（火）～5月4日（水）
- 【報告者】 鹿児島県 福森 淳
- 【メンバー】 江口 清唯, 尾曲 佑太, 福森 淳
- 【派遣先】 嘉島町体育館避難所・モバイル薬局
- 【交通状況】 往復ともに霧島市鹿児島空港 IC～松橋 IC 経由熊本県薬会館（2時間10分）  
熊本県薬会館→嘉島町避難所（15分） GW 期間中だったがスムーズ
- 【ライフライン】 特に問題なし
- 【活動内容】 ●体育館（避難所）内の巡回について  
地震後3週間弱と言うことも有り、大きな混乱は見られないが、避難者の疲労感の蓄積、気力低下は否めない。巡回は地元看護師との同行により、スムーズに実施できている。便秘、不眠を訴える方が多い。  
インスリンの冷蔵庫内保管について少し不安が残る。薬情は持っているが、お薬手帳はあまり持っていない印象。体調不良に対しては病状の確認、既往症、定期服用薬等の確認後、OTC 薬か受診勧奨するかを看護師と協議し、トリアージする。血圧測定希望のニーズが多い。  
公衆衛生的な分野ではトイレ、ゴミ捨て場（特に生ゴミ等）、水回りなどの状況を定期的に確認し、不適部分は実際に処理するだけでなく、今後のために指導を行う。  
ほかに、OS-1 や消毒薬の使用法の指導、ポスター貼り等がすでに行われていた。
- モバイル薬局での調剤業務について  
あくまで避難所によって起こった病状に対応。基本的に慢性患者の定期処方薬については被災当初から近隣の薬局に連絡を取り対応、本人または家族に取りに行ってもらっていたとのこと。しかし、それでも休日等対応が難しい場合は、医師との協議により、類似薬を短い日数処方。非常にスムーズな調剤、投薬が行われていた。